

第4回「これからの学生生活をともに考え、見守る研究会」開催報告

(2023年2月18日理事会報告より抜粋)

1. 日時・場所

12月9日(金) 17時~19時公開研究会、オンライン zoom 開催

2. 出席者 委員・事務局 18名+公開参加者 47名、合計 65名

(1) 委員・事務局出席者(下線欠席) 18名

学生7名、教員4名、マスコミ等2名、専務理事2名、事務局3名

(2) 公開出席者(委員・事務局以外) 47名

教員7名、大学職員2名、官公庁2名、大学生協役職員(除く事業連合)役員5名・職員5名、
大学生協事業連合5名(役員2・職員3)、コープ共済連7名、マスコミ2名、リスク講座2名、取引先1名、
有識者3名、全国大学生協連内局6名

3. 議題と内容

メインテーマ『学生相談から見えるコロナ禍の学生の心身の健康と支援課題』

<公開研究会>

(1) 第4回研究会について

(2) 委員報告と委員ディスカッション、全体ディスカッション

<主な意見の抜粋>

(学生)

- ・名古屋大学が、一人ひとりの学生へ面談を行ったことは、大学は学生を見捨てていないとのメッセージとして伝わる。
- ・先生から、学生皆さんと会えて嬉しい、と言ってもらえたのは良かった。
- ・ゼミやサークルなどコミュニティに属していないと大学生としての実感が無いので、何かに属すること。
- ・3年生で繋がりを欲していない学生もいる。繋がりが無くても、繋がりがなくて、と思っている人へ、繋がりの良さの価値を届ける必要がある。
- ・繋がりを求めない学生が一定数いる。1、2年生の時にコロナ禍でも人間関係ができていて、3年生になってコミュニティを無理に広げなくてもいいかなと思っている学生がいる。サークルなど、やりたくてもできないのと、別にやりたいと思っていないのとが混在している。
- ・今の1年生は、対面活動再開で入学して、従来の大学生活への希望を持っている。高校生活がコロナで制限された分、大学生活を良いものにしたい気持ち強い。勉強もサークル活動も頑張ろう、自分から先輩と関係を持つとうとしている。
- ・zoomは一方通行になりがち。何かありますかと聞かれても、しゃべれない自分があった。質問は一杯あったが。
- ・学生相談室を利用したいが、どこにあるか知らなくて、成績や生活のことを相談したいのだが、ハードルがあった。

(鈴木先生)

- ・一人二人でも仲間が見つかると思ってしまう、と学生相談に来る学生も言っている。それを広げるにはエネルギーがいる。一人二人でも安心して大学に来れる。本来そこからプラスαがあり、社会に出るとそのプラスαが無限に広がるけど、学生がその狭いちょっとした枠だけしか知らないで、社会に出て、枠がわーっと広がった時に、そこが(学生に対して)心配。
- ・今のこういう時代を過ごした若者が新しい時代を切り拓いていく、創っていく時だと思うので、若い人たちにまかせるとのこと。
- ・散歩はいいね!自分が癒されちゃうので、自分が楽しんでいる。歩きながら自分の事を語る。学生も生き生き、楽しく元気になっている。

(米山委員長)

- ・ロンリネスは「孤独」じゃなくて「孤立」と訳した方が良いかな。孤独はある程度耐えられるけど、大学も先生も友達も見えてくれない、家族とも離れている、そういうロンリネス=孤立みたいなものを、どう大学が繋いでいくか、という事の凄く良い参考例として、(名古屋大学の学生一人一人への面談対応については)、私は受け取りました。

(3) 最後に

4. 2023年度に向けて

(1) 事務局会議

- ・委員以外の意見が出にくかったので、パネルディスカッション方式は良いのではないかと
- ・委員構成について、学生は変更+継続だが、教員や外部は継続を基本としながら、交代があるのか確認すること

・22年度は教員の報告が中心であったが、23年度はwithコロナに向けて、色々な場面で頑張っている学生の報告を中心にして、ディスカッションを行うのが良いのではないか、との意見交換がなされた。

(2) 第5回研究会

2月16日（木）に開催して、事務局会議の意見を参考に、22年度の振り返りと23年度の研究会について議論を行った。